

入選

守ろう大切な水

浦和実業学園中学校 一年 熊木 優陽

僕は、魚を観察することが好きです。

以前、出掛けた時に、たくさん海にゴミが捨てられているのを見て、魚にとつてとても環境が悪いと思いました。そこで今回は、私達人間や動物や魚などが生きていくために必要な水が、どのような状況なのかを考え、水質汚染について調べてみました。

日本の水質汚染が最も問題になったのは、高度経済成長期です。産業復興や経済発展に伴い工業化と都市化が進み、大都市を中心に水質汚染は拡大しました。昭和30年代には、イタイイタイ病や水俣病が社会問題となり、これに水質汚濁防止法などが制定されました。

日本の水質汚染の主な原因は、産業排水・生活排水・気候変動によるものと調べてわかりました。

水質汚染により影響を受けるものとしては私たちが毎日使う水が使用できなくなったり水を飲むことができなくなります。また川や海にすむ生き物が生きていけなくなります。そのようなことにならないために現在の日本では様々な対策が行われています。僕は、自分に身近な荒川を主とするような対策をしているかも調べてみました。

荒川では自然再生事業として、干潟の復活やヨシ原の再生をしていることがわかりました。また浄化導水事業（汚れている川の浄化を図り、川の水質を向上させる取り組み）を行っています。流域住民は、荒川下流部ゴミ対策アクションとして、「荒川クリーンエイド」「荒川下流部ゴミ対策協議会」「ゴミホットラインの開設」等を行っていることもわかりました。他には、地域の子供たちにも水の大切さを伝えるために下水処理施設の見学も行っています。僕は、ボーイスカウトに所属していたときに荒川水循環センターの見学をさせていた

だいて、水の大切さを知りました。以上のような様々な対策をしていくことで、実際にイセウキヤガラなどの植物が生えたり、亀や鳥、オイカワやギンブナなどが生息することができています。また私たちが生きていくために必要な水を使用することができています。

国や自治体が対策することだけではなく、一人一人が家庭で出きる対策もあります。台所ではお皿についた油を、ふいて洗う。洗剤を使いすぎないようにする。食べ物は食べられる量を作り、残食は排水口に流さずゴミ袋に入れる。お風呂では洗剤を使いすぎないようにし、残り湯は洗たくに使う。洗たくは水や洗剤が必要な分量だけ使うようにする。川や海に出かけた時はゴミを持ち帰る。このようなことを忘れず自分たちで努力し、水を汚染しないように気をつけていかなければならないと思います。

日本は世界と比べるとまだ水質汚染対策が進んでいないという現状だということも知りました。僕は大好きな魚たちがきれいな水で生きていけるように、世界の汚染対策に追いつけるように自分が出来る事を考え、身の周りから水質汚染をなくしていきたいと強く思います。